



沖津宮現地大祭

全国各地より沖ノ島へ 二六八名が参拝

本年は週末となった五月二十七日(日)、二六八名の参加者が絶海の孤島沖ノ島へ渡島、沖津宮現地大祭が斎行され、敬虔な祈りを捧げた。ご周知の通り平素、沖ノ島への渡島は制限されているが、この日のみ特別に、一般の方の入島を受け入れている。

参拝者は、二十六日筑前大島中津宮に参集。午後六時から斎行される渡島安全祈願祭に参列し、翌日の渡島の無事を祈念した。祭典後、葦津敬之禰宜より挨拶があり、その後引率の神職から説明・諸注意を受け各自大島の宿に参籠した。

当日午前七時半、大島渡船「しおかぜ」・「宝栄丸」・「恵比寿丸」・「恵比寿丸Ⅱ」・「アクアシャイン」に各々乗船。一行は近



7月祭事暦

- 1・15日 月次祭
午前10時～
高宮祭
第二宮・第三宮祭
宗像護国神社祭(1日)
- 午前11時～
総社祭
浦安舞奉奏(1日)
豊栄舞奉奏(15日)
- 30日 午前9時～
第57回
中津宮七夕揮毫会
於=大島・中津宮
- 31日 午後5時～
夏越の大祓神事
大祓式 於=神門前
引き続き
夏越祭 於=本殿

余滴

安倍宗任は平安時代の奥州の武將で、前九年の役で源義家に敗れ、筑前国大島に配流された。この地では宗像氏の日朝・日宋貿易に深く関わったとされ、墓所は大島の安昌院にある▼兄の貞任は、前九年の役での和歌が知られており「衣川の柵」で貞任が騎馬で敗走する時、源義家が見つけ衣川の柵にかけて「衣のたては ほころびにけり」と下の句を投げたところ、貞任は「年を経し 糸の乱れは 苦しさに」とすかさず上の句を返したといわれ、その雅心に感動し追跡をあきらめたといわれている▼宗任は都に連行された時、貴族が奥州の蝦夷は花の名前など知らないだろうと、梅の花を見せたところ「わが国の 梅の花とは見つれども 大宮人はいかがいふらむ」と歌で返し、都人を驚かせた▼この時代の戦いは「やあやあ、遠からん者は音に聞け」と、己の素性を名乗って始まる、「対一の戦いであり深さがあつたが、これが元寇により一変する。集団で襲われ、火薬等の新たな兵器で情け容赦ない戦いを知る▼万葉集の伴家持の歌に「海行かば水漬く屍 山行けば草生す屍 大君の辺にこそ死なぬ かへりみはせじ」とある。この歌の魂のように、鎌倉武士は国の為、「命を捧げ」の国難を救った。万葉の時代も若者が国を守る為、辺境の地で死んでいった。靈魂は屍より遊離し、故郷の美しい山や海に鎮まる。この魂の伝承は歌と共に今につづく。(渡)



神具・装束・授与品
井筒

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



沖ノ島海上場での直会

年稀に見る好天に恵まれ鏡の様な海となり穏やかな海路を、一路沖ノ島を目指した。
午前九時には全船沖ノ島に到着し、一同直ちに海中で禊を行い心身共に清めた後、島の中腹に鎮座する沖津宮本殿へは、四百段に及ぶ参道を進んだ。

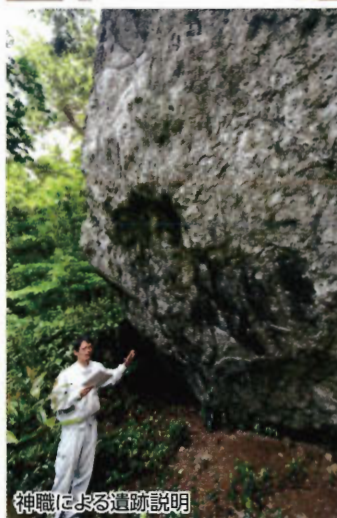
午前九時三〇分、沖津宮本

殿にて現地大祭斎行。御神前には全国各地の参拝者からの御神酒・奉献品が供えられ、葦津敬之禰宜が我国の命運をかけた日本海海戦を顧みて国家・皇室の御安泰、参拝者をはじめ国民の平穏を祈る祝詞を奏上。続いて禰宜以下各代表が順次玉串を奉奠、敬虔な祈りのなか滞りなく祭典は終了した。



祭典を終え挨拶する葦津(敬)禰宜

その後、波止場では当大社中津宮の氏子組織である沖・中両宮奉賛会、同翼賛会の奉仕により直会が行われ、参加者は刺身、煮魚などに舌鼓を打ちながら、神の島でのひと時を過ごした。



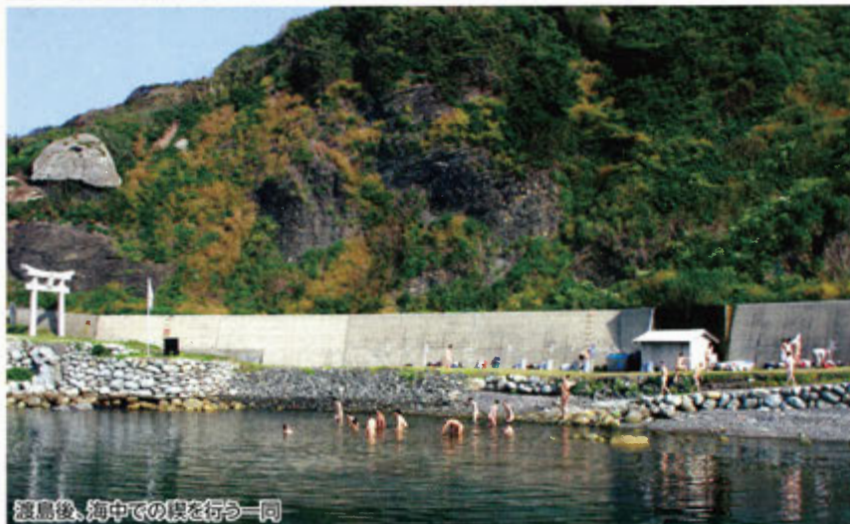
神職による遺跡説明

この沖ノ島を中心とする宗像地域が、「沖ノ島と関連遺産群」として世界文化遺産の暫定リストに入り広く知られるようになると、祭典時の遺跡への立ち入りや過度な記録、記念撮影等、島への興味本位で参加される方が増えたのも事実である。近年の電子機器発達により、どなたでも容易に情報

報を取得し記録、発信することができきる社会となった。便利な一方で祭祀の神聖性や尊厳護持の観点から、本年より島内での撮影を制限することとした。

参拝者の反応は、当日の祭典をみると、神職の目の届かない所では、参拝者同士注意し合う等、神社側の考えを理解いただいたようであり、今後、古代より連綿と祭祀が受け継がれる沖ノ島を五感で感じ、心というメディアに記憶していただきたいと思う。

参拝者の反応は、当日の祭典をみると、神職の目の届かない所では、参拝者同士注意し合う等、神社側の考えを理解いただいたようであり、今後、古代より連綿と祭祀が受け継がれる沖ノ島を五感で感じ、心というメディアに記憶していただきたいと思う。



渡島後、海中での奥を行く一同



中津宮での渡島安全祈願祭



早朝、船へ向かう参加者

寛仁親王殿下のご薨去に際し 謹んで奉悼の意を表します。

三笠宮の御長男・寛仁親王殿下には六月六日、多臓器不全のため六十六歳でご薨去あそばされた。

当大社では哀悼の意を表し本殿横に記帳所を設け、七日

午前九時には境内・勅使館前にて宮司以下職員一同、黙祷を捧げるとともに、十四



巡拝式斎行



日の「斂葬の儀」(一般の本葬)当日午前十時、巡拝式を斎行し殿下を偲んだ。又、この儀に合わせ高向宮司と葦津(敬)禰宜も上京、一般拝礼し、玉串を捧げた。

三笠宮家と当大社の由縁は深く、大殿下(三笠宮崇仁親王殿下)には、昭和四十四年の第三次沖ノ島學術調査御視察、同五十年には百合子妃殿下と共にご参拝いただいている。

又、寛仁親王殿下には、昭和五十七年十一月三十日に津屋崎(現〓福津市津屋崎)を御訪問された際、当時の葦津宮司が参上し、当大社に関する事を御説明申し上げている。寛仁親王殿下の御功績に感謝するとともに、御霊の御平安を謹んでお祈り申し上げます。

氏子会総代総会開催

五月十八日、今年度第一回目となる氏子会総代総会が置鮎玄二郎会長以下一〇三名出席の下、当大社清明殿にて開催された。

先ず本殿にて正式参拝、清明殿へ移動し開会、神宮並皇居遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領を一同唱和し、置鮎会長、高向宮司が挨拶を行い、



新入職員として四月一日より当大社へ奉職した葦津敬之禰宜・宗像崇史権禰宜が紹介された。

議事は置鮎会長が議長に選出されて審議は始まり、事務局より平成二十三年度の氏子会事業報告と決算報告の後、小島監事より会計監査報告が行われ、全会一致で承認された。

次に平成二十四年度氏子会事業計画案、予算案について事務局より説明され、こちらも前回一致で承認された。

本年度より評議員に就任された方々も多く、事務局より氏子会組織の由来についての説明がなされ、併せて氏子会費取り纏めについても御理解と御協力の依頼がなされた。

最後に、本年度より総代・評議員に新たに御就任いただいた方々への委嘱状贈呈式が行われた。該当者を代表して田島地区の



委嘱状贈呈

中野武評議員に置鮎会長より委嘱状が手渡され、総会無事閉会した。

又、六月二十二日には第一回氏子評議委員会が開催され、夏の大祓式に関わる人形並献米袋の配布並取り纏めの件を中心に審議がなされ、各評議員の皆様にも人形・献米袋をお持ち帰り頂き、配布作業に御奉仕頂いた。

本年度より新たに御就任頂いた新役員、総代・評議員の皆様には今後の大社の諸行事・祭典等への御協力をお願いすると共に引き続き総代・評議員をお引き受け頂いた方々には更なるお力添えをお願い申し上げます。

沖ノ島生態調査報告

前編

カンムリウミスズメとネズミの現状

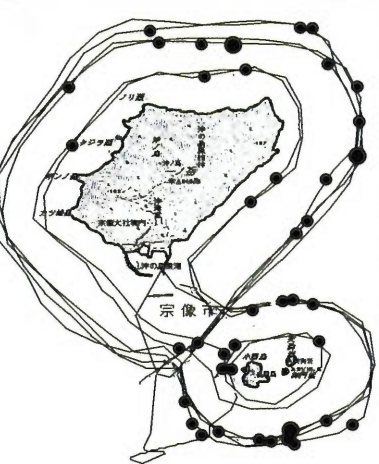
武石 全慈 (北九州市立自然史・歴史博物館 学芸員)

天然記念物の海鳥カンムリウミスズメ(写真1)は、国内ではわずかに十ヶ所ほどの島で繁殖が知られているだけです。日本鳥学会が発行する日本鳥類目録では、繁殖地の一つが「筑前沖ノ島」であると記されています。しかし、実際の繁殖

地は、沖ノ島の南東一キにある小屋島で、沖ノ島そのものからはこれまでに繁殖の記録はありませんでした。以前にもご紹介しましたが(本誌第五七七号、第五九七号)、小屋島では約二〇〇つが

このように二度もドブネズミが小屋島に侵入して被害を与えていることから、沖ノ島がネズミの供給源になっているのではないかと考え、二〇一〇年に沖ノ島でネズミ調査を行ったところ、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミが沖ノ島に生息していることが確認できました。

今年三月二十七日、二十九日にかけて、宗像大社様の許可を得まして、沖ノ島と小屋島で、再びカンムリウミスズメとネズミの調査を行いました。その主な目的は、沖ノ島でカンムリウミスズメが繁殖しているのかどうかの確認とネズミ類の生息状況を調べることでした。今回は、アメリカとカナダの調査研究所のH・カーター氏とD・ウィットワース氏を招いて共同で調査を行いました。海外からわざわざ二人を招いた理由は、彼らがウミスズメ類の繁殖個体数を



【地図】沖ノ島・小屋島周辺海上でのカンムリウミスズメの確認地点(2012年4月24~25日)

の成鳥が食べられ、ほぼ全滅に近い被害を受けました。その後のネズミ駆除によって、カンムリウミスズメの繁殖数は回復しつつありました。二〇〇九年に再びドブネズミの侵入があり、五、六羽程度でしたが食べられ

た。そのように二度もドブネズミが小屋島に侵入して被害を与えていることから、沖ノ島がネズミの供給源になっているのではないかと考え、二〇一〇年に沖ノ島でネズミ調査を行ったところ、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミが沖ノ島に生息していることが確認できました。

今年三月二十七日、二十九日にかけて、宗像大社様の許可を得まして、沖ノ島と小屋島で、再びカンムリウミスズメとネズミの調査を行いました。その主な目的は、沖ノ島でカンムリウミスズメが繁殖しているのかどうかの確認とネズミ類の生息状況を調べることでした。今回は、アメリカとカナダの調査研究所のH・カーター氏とD・ウィットワース氏を招いて共同で調査を行いました。海外からわざわざ二人を招いた理由は、彼らがウミスズメ類の繁殖個体数を

そこで、お二人が帰国した後、四月二十四、二十五日にかけての夜間に、沖ノ島には上陸せずに海上だけのセンサスを再度試してみました。その結果を地図に示します。夜の九時、明け方の四時にかけて、沖ノ島と小屋島の周りを六回まわりまして、海上のカンムリウミスズメを探しました。

地図にはカンムリウミスズメを見つけた場所を黒丸で示してあります。右下の小屋島の周りでは当然にカンムリウミスズメがみわかりました。しかし驚いたことに、沖ノ島の北側と東側(地図の上側と右上側)でカンムリウミスズメが結構見つかりました。これは、沖ノ島そのものにも繁殖場所がある

今年三月二十七日、二十九日にかけて、宗像大社様の許可を得まして、沖ノ島と小屋島で、再びカンムリウミスズメとネズミの調査を行いました。その主な目的は、沖ノ島でカンムリウミスズメが繁殖しているのかどうかの確認とネズミ類の生息状況を調べることでした。今回は、アメリカとカナダの調査研究所のH・カーター氏とD・ウィットワース氏を招いて共同で調査を行いました。海外からわざわざ二人を招いた理由は、彼らがウミスズメ類の繁殖個体数を

今年三月二十七日、二十九日にかけて、宗像大社様の許可を得まして、沖ノ島と小屋島で、再びカンムリウミスズメとネズミの調査を行いました。その主な目的は、沖ノ島でカンムリウミスズメが繁殖しているのかどうかの確認とネズミ類の生息状況を調べることでした。今回は、アメリカとカナダの調査研究所のH・カーター氏とD・ウィットワース氏を招いて共同で調査を行いました。海外からわざわざ二人を招いた理由は、彼らがウミスズメ類の繁殖個体数を

今年三月二十七日、二十九日にかけて、宗像大社様の許可を得まして、沖ノ島と小屋島で、再びカンムリウミスズメとネズミの調査を行いました。その主な目的は、沖ノ島でカンムリウミスズメが繁殖しているのかどうかの確認とネズミ類の生息状況を調べることでした。今回は、アメリカとカナダの調査研究所のH・カーター氏とD・ウィットワース氏を招いて共同で調査を行いました。海外からわざわざ二人を招いた理由は、彼らがウミスズメ類の繁殖個体数を



【写真1】小屋島のカンムリウミスズメ(2012年3月27日)

今年三月二十七日、二十九日にかけて、宗像大社様の許可を得まして、沖ノ島と小屋島で、再びカンムリウミスズメとネズミの調査を行いました。その主な目的は、沖ノ島でカンムリウミスズメが繁殖しているのかどうかの確認とネズミ類の生息状況を調べることでした。今回は、アメリカとカナダの調査研究所のH・カーター氏とD・ウィットワース氏を招いて共同で調査を行いました。海外からわざわざ二人を招いた理由は、彼らがウミスズメ類の繁殖個体数を

今年三月二十七日、二十九日にかけて、宗像大社様の許可を得まして、沖ノ島と小屋島で、再びカンムリウミスズメとネズミの調査を行いました。その主な目的は、沖ノ島でカンムリウミスズメが繁殖しているのかどうかの確認とネズミ類の生息状況を調べることでした。今回は、アメリカとカナダの調査研究所のH・カーター氏とD・ウィットワース氏を招いて共同で調査を行いました。海外からわざわざ二人を招いた理由は、彼らがウミスズメ類の繁殖個体数を

今年三月二十七日、二十九日にかけて、宗像大社様の許可を得まして、沖ノ島と小屋島で、再びカンムリウミスズメとネズミの調査を行いました。その主な目的は、沖ノ島でカンムリウミスズメが繁殖しているのかどうかの確認とネズミ類の生息状況を調べることでした。今回は、アメリカとカナダの調査研究所のH・カーター氏とD・ウィットワース氏を招いて共同で調査を行いました。海外からわざわざ二人を招いた理由は、彼らがウミスズメ類の繁殖個体数を

今年三月二十七日、二十九日にかけて、宗像大社様の許可を得まして、沖ノ島と小屋島で、再びカンムリウミスズメとネズミの調査を行いました。その主な目的は、沖ノ島でカンムリウミスズメが繁殖しているのかどうかの確認とネズミ類の生息状況を調べることでした。今回は、アメリカとカナダの調査研究所のH・カーター氏とD・ウィットワース氏を招いて共同で調査を行いました。海外からわざわざ二人を招いた理由は、彼らがウミスズメ類の繁殖個体数を

ことを強く示すものです。実際には、まだ沖ノ島では繁殖場所は確認していませんが、来年の繁殖期に見つけることができればよいがと思っています。もし見つけることができれば、ビッグニューズであり、カンムリウミスズメの今後の保全を考える上でも重要なことといえます。



【写真2】スポットライトサーベイを行なうカーター氏とウィットワース氏 (2012年3月28日)

小野田寛郎氏参拝

五月十四日、講演の為来福された小野田寛郎氏がご夫人と共に当大社を参拝された。

ご周知の通り、氏は戦争終結後も二十九年間に亘ってフィリピン・ルパング島で残智謀者としての任務を遂行し、帰



還後はブラジルで農場を営む傍ら我国の青少年育成の活動も行われてきた。

翌日岡垣町で行われた講演会に出席した当大社職員によると、九十歳という年齢にも関わらず、氏は起立されたまま九〇分に亘って講演を

されたとの事。

講演では、討伐隊との戦闘、又追いつめられることによつて五感が研ぎ

澄まされ、飽食の時代には到底辿りつけない精神下に置かれた体験等、貴重なお話を拝聴することが出来たようである。

体験談を交えながら一貫して氏が伝えたかったのは、愛国心が希薄になり、日本人としてのアイデンティティを失いつつある我国の未来を憂いていることであつた。

小野田氏の益々のご健勝をお祈り致します。

九州式内社顕彰会 結成式

六月四日、九州各地より約三十名の会員が集い、正式参拝の後、当大社清明殿にて九州式内社顕彰会の結成式が行われ、今後の活動等について話し合われた。

翌日は希望者のみ筑前大島へ渡島、当大社中津宮を正式参拝した後、御嶽宮や沖津宮遙拝所を参拝、昼食は中津宮敬神婦人部が用意した海の幸に舌鼓を打ち島を後にした。



式内社とは、

延長五年(九二七年)に制定された法令集「延喜式」(五十巻)の神名帳に記されている神社のことであり、当時、朝廷から篤い信仰をうけていた。九州で九十八社、福岡県では十六社存在する。今では、名も知れず衰退した神社も多い。この会の目的は、延喜式内社の顕彰を通じて神社道の昂揚を図ることである。この会の前身は、三十年に亘り



清明殿での結成式

当社を事務局とし活動した財団法人 式内社顕彰会 九州支部である。しかし国の進める「公益法人改革」によつて昨年六月解散の運びとなつた。しかし会員の熱意により引き続き式内社顕彰を行うこととなり名も改め今回の結成式となつた。

今後の活動は、本年の対馬の巡拝をはじめとして、各地の式内社巡拝を中心に、式内社の鎮座地を記したマップ等の作成も検討している。

宗像大社奨学金 受給生作文紹介

「宗像大社での思い出」

香椎工業高校3年 黒川 健太郎(日の里中出身)

僕の宗像大社での思い出は、小さいころから今まで、沢山の思い出がありました。その中で特に印象深く楽しかった思い出がいくつかあります。

まずは、小学校の時に、おじいちゃん、おばあちゃんと初詣に行ったことです。

おじいちゃんが亡くなって、三人で来る事は出来なくなりましたが、おばあちゃんが露店でお餅を買ってくれて、三人で食べたことを今でも覚えています。

二つ目は、中学校の部活動のときに競争してみんなで走りに行ったことです。順位を争って一生懸命走った後に、お参りをして、おみくじを引いたのが楽しい思い出です。帰りも走ってとても疲れたことも覚えています。

最後は、家族で初詣に行ったことです。僕は四人兄弟です。一番上の兄さんと二番目の兄は、県外に就職し、昨年まで、ここで奨学金を頂いていた姉も東京の大学に進学しました。これからは、家族そろって宗像大社に参拝にくることも少ないかと思いますが、兄たちがお正月など帰省した時には、また家族皆で参拝にきたいと思います。そして、楽しい思い出を増やしたいと思います。この奨学金を頂きありがとうございます。

「宗像大社での思い出」

宗像高校2年 遠藤 克国(大島中出身)

私の故郷大島の中津宮には宗像三女神の湍津姫神が祀られています。三女神が年に一度集まる「みあれ祭」には子供の頃からいろいろな形で係わってきました。

保育園の時には旗を振り、小学校の時は鼓笛隊でパレードの先導に立ち、中学校の時は父の船に乗り海上パレードにも参加しました。父は漁師を営んでいるので、私が大島にいた十五年の間に二度程、御座船として御神輿を船に乗せ先頭を走ったこともあり、その都度船に同乗させてもらい、お祭りを楽しんできました。

そしてパレードが終わると、もう一つの楽しみが待っていました。それは家族で宗像大社にお参りすることでした。田島放生会では境内にたくさんの露店が並んでいて、ウキウキしたお祭り気分を味わうことが出来ました。

又、少し奥の方に進むと本殿があり、神門をくぐると賑やかさは打って変わって、お宮独特の雰囲気があり、それを私はとても気に入っています。何となく気持ちが落ち着き、心が清められ癒される思いになります。そこでしっかりとお参りをして、最後におみくじを引きます。毎年同じようなことの繰り返しですが、何か良いことがありますので、ほっと一安心します。

そして、最大の楽しみは直会のお弁当でした。お宮で食べることが出来たから特別に美味しかったのかも知れませんが、そこで出された甘酒の味が忘れられず、毎年冬には祖母に甘酒を作ってもらっています。

私の好きな宗像大社には、このように今までたくさんのいい思い出が残っています。

第41回 「宗像大社短歌大会」のご案内

◆日時 平成24年11月11日(日)

- 小中高生の部…9:30~11:00
- 一般の部…12:00~15:40

◆会場 宗像大社「清明殿」(宗像市田島2331)

◆応募方法

- 詠草…小中高生は1人1首。
一般は1人2首まで可(未発表のもの厳守)。B4の400字詰め原稿用紙の右半分に楷書で作品(固有名詞など難読語にはふりがなを)、左半分に郵便番号・住所(マンション名)・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を明記のこと。
小中高生は学校・学年も明記のこと。
- 出詠料…1首1,000円
(定額小為替にて。小中高生は無料)。
詠草集送付のための切手(50円切手2枚)を作品と同封のこと。
- 締切日…
一般=平成24年8月31日(金)(当日消印有効)
小中高=平成24年9月8日(土)(当日消印有効)
- 送り先…〒811-4175 宗像市田久5-25-17
「宗像大社短歌大会」実行委員会事務局 宛
【小】【中】【高】【一般】の別を朱書きのこと。
- お問合せ先…上記の送り先へ往復葉書で。

◆選者 小中高生の部=桜川冴子 (敬称略・50音順)

- 一般の部=青木昭子・桜川冴子・野田光介・山本加壽子
- ※講演(一般の部)=藤野早苗 題目=「愛のうた」

◆発表 平成24年11月11日(日) 大会当日 選考結果送付希望の方は、結果送付代 (50円切手2枚)を同封して下さい。

◆賞

- 小中高生の部=宗像市長賞・宗像市教育委員会賞・
福津市長賞・福津市教育委員会賞・
宗像大社賞・毎日新聞社賞・奨励賞
- 一般の部=福岡県知事賞・福岡県教育委員会賞・
宗像市長賞・宗像市教育委員会賞・福津市長賞・
福津市教育委員会賞・毎日新聞社特別賞・
宗像大社宮司賞・宗像大社氏子会賞・
宗像大社賞・毎日新聞社賞・佳作

◆主催 「宗像大社短歌大会」実行委員会

◆共催 毎日新聞社

◆後援 福岡県・福岡県教育委員会・宗像市・ 宗像市教育委員会・福津市・福津市教育委員会・ 宗像大社・宗像大社氏子会

※応募によって得られた個人情報、本大会以外のことには利用しません。

(続)

次ノ寄物

268

いしいただし



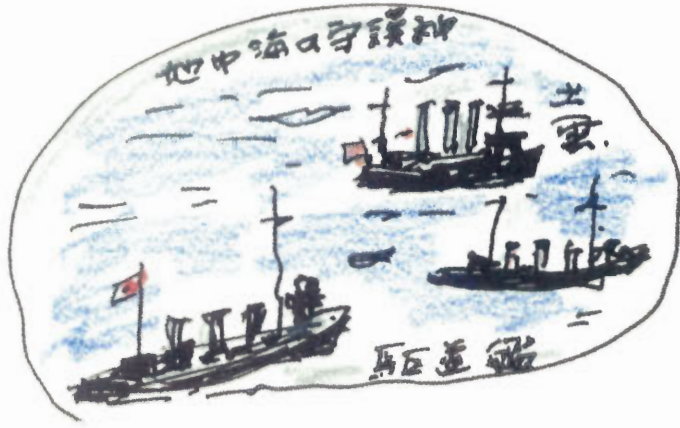
太平洋戦争が終わって六七歳の歳月がたった。戦争を経験した人も、九十、八十代となり少なくなっている。

しかし時折り街を歩くと、戦争の記憶が甦ることがある。蒼天の空を見上げると、一筋の飛行機雲が流れている。きまっポーイングB29を思い出す。

戦争中は、小学生低学年だったB29は恐怖の飛行機だった。重い爆音、高空を飛行機雲を残し飛行している。見るだけでも恐ろしかった。旅すると資料館や博物館へ足を延ばすが、館の片隅には戦時中の生活用品が展示されている。

子供の頃、見たり使ったりの経験があり当時の事が思い出されて懐かしい。

街のいたるところに戦争遺産が残っている。



数年前、築上郡・築城方面を歩いたが、ここは旧軍の爆撃機や戦闘機を格納する掩蔽壕が残っており、しばし足を留めた。轟音をたてて出撃するのが目ぶたに浮んだ。信州松代に行った時には、松代の大本営の岩窟に、たち寄った。本土決戦の構想を描き軍部の逼迫した姿がよめた。宗像市や福津市、古賀市にも戦争遺産はある。沖ノ島は世界遺産にむけて努力が行われているが、沖ノ島は戦争遺産も残っている。大戦末期には約二〇〇人陸海軍が陣をかまえた。弾薬庫、監視哨や砲台の台座や水槽も残っているし、ほぼ樹木に覆われているが、軍用道路もある。玄界沿岸、島々にも軍事施設の跡が残っている。

遠賀郡芦屋町のアーティスト・田代恒雄氏と話をしていたら、北九州市若松(同海灣口)に軍艦防波堤があることを教えてもらった「若い時には何度か行きましたヨ」という。後日資料も送ってきた。たまたま福岡の書店をのぞいていたら「旧軍史跡を歩く」(日本本土に遺る戦争遺産、飯田則夫、新人物文庫)を見つけた。そこには田代さんが話しをしていた若松の軍艦防波堤も紹介してある。防波堤となった駆逐艦は戦史に残る働きをしている艦であった。「柳」は昭和十五年に除籍され、戦争中は佐世保港に係留され

夏越の大祓神事のご案内

恒例の夏越祭が近付いて参りました。このお祭りは、大祓神事を中心に行われ、夏季に流行する悪疫を除去し、皆様方の心身の罪・穢を人形に託して祓い除き、清々しい気持ちで、毎日を無事に過ごしていただくための祈りを込めた神事でございます。

本年も左記の通り斎行致しますので、皆様お誘い合わせの上御参拝下さいますよう御案内申し上げます。

七月三十一日(火) 午後五時

大祓神事 引き続き

夏越祭齋行



旧制中学校の軍事訓練に使われていた。この艦は、第一次世界大戦に地中海のマルタ島を拠点として、連合軍(イギリス、フランス等)の輸送と安全にドイツ海軍と戦い活躍した「栄光の歴史」を持った艦であった。あと二艦は太平洋戦争末期の昭和二十年四月、沖繩特攻作戦で戦艦大和を護衛し、奇跡の生還をした冬月と涼月である。田代氏に「よかったら案内しますヨ」と言われ、次回はその防波堤を報告したい。

第六十一回

宗像大社歌会詠草



大西晶子選 毎月25日×切

宗像市 土穴

山本 静子

黒縁の眼鏡は若し世界一の木村次郎衛門氏百十五歳

感動が意欲的に詠まれていて。少し言葉が詰まっているので調べをゆっくりさせてみた。黒縁の眼鏡の目元若々し長寿世界一の木村次郎衛門氏。

福津市 若木台

山崎 公俊

鏝の字を矢じりと読みて矢さきとは読まざりしわが倭人のさがや

鏝の字が日本に伝わったときに、矢さきではなく、矢じり(矢尻)と読んだのは日本人の性格に拠ると思う作者。字の読みの考察からできた理知的な歌。

うきは市 浮羽町

向 則正

春立ちてシャツ新しく街を往く少し汗ばみ気力湧きくる

春の街を歩く作者の心弾みが爽やかに表現されている。二句(シャツ新しく)が季節の移りを具体的に表し、(汗ばみ)が結句を説得力のあるものにしてている。

北九州市 八幡西区

豊田 光子

子の操縦われは戦時に思ひ寄せ沖繩の果て昼の空航く

息子さんはパイロットなのだろう、平和な空の旅を楽しめる今、沖繩上空を過ぎる時に、かつての戦を厳粛に受け止める作者と解釈した。初句(子の操縦で)。

福津市 中央

池浦千鶴子

山桜盛れる宿の庭に出で湯気のたちたる昼餉いたたく

山桜のさく庭園でのランチ、四句の(湯気のたちたる)が効いて、読者の食欲もそそるようだ。湯気をあげている食品の名が入ると更に臨場感が出るだろう。

北九州市 戸畑区

田中ハツセ

散り始む牡丹の花びら拾ひきて押し花とせむ花の命を

散り始めた牡丹を惜しむ気持ちを二句・四句切れで詠んである。初句を(散り初めし)とし四句切れにすると、作者の優しい気持ち、より滑らかに伝わる。

宗像市 池田

森 龍子

散歩中同じ会話の繰返し老いに味方の風受けて歩く

いつもの仲間との気のおけない散歩の情景。同じ話を繰り返しながらも背を風に押され楽しく歩くのだ。二句を(同じ話題を)、四句(老いの...)に。

福津市 星ヶ丘

佐々木和彦

恣意的に聴覚映像竹林を胸裏に収め眠りに入りぬ

作者の言葉遊びか、わざと漢字の硬い響きの言葉を並べ、竹林の風景と音を思いながら眠りについたことを詠んでいる。普通の詠み方の歌でも読んでみたい。

福津市 若木台

野間 精一

六百五十年の齢のイブキビヤクシンにわれは自ずと手を合はせたり

樹齢六百五十年のビヤクシンともなれば自然に手を合わせたくなるような偉容が想像できる。古木の命に打たれた作者に素直に共感できる歌。

宗像市 日の里

大和美由紀

大空へ枝伸ばしたる桑の木は五月の風にゆるやかに揺る

一読、気持ちのよい景が目につかぶ歌。揺れているのは木全体だろうか、枝の先がゆれるのなら語順を換え(桑の木)を初句にしても良いだろう

選者詠

ひとあめが降ればすなほに一雨分

ふとれりキウイのいまだ青き実

をさな児の髪くしやくしやくにするやうに

ゴーヤのつるに風戯れる

第五八五回

俳句作品集

宗像市 日の里

石松 弘次

鎮国寺枝垂れの藤や緋鯉泳ぐ

臥所より楠の若葉の揺れを見る

宗像市 日の里

花田いつ枝

百穀を潤す雨や麦の秋

編集後記

九州地方も梅雨入りし、蒸し暑い日々が続いております。境内を掃除すれば多量の汗が吹き出し、つい冷房のスイッチに手を伸ばしたくなります。しかし、当大社にも電力会社より今夏一〇割の節電要請が届き、当然冷房などは言語道断。原点復帰し、扇子や団扇などで暑さを耐え忍んでおります。そして当大社の節電対策として、先ず電球をLEDに替えました。さらに七月九日の間、土・日曜、祝日、朔日(二日)を除く平日は「儀式殿」を閉鎖し、全体的に「祈禱(ご祈禱)を「祈願殿」で行います。ご参拝の皆様には「ご不便をおかけするかとありますが、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。また、今月三十一日には「夏越の大祓式」がございます。是非ご参列頂き、直径三メートルの「大茅の輪」を潜り罪穢れを祓い、健やかに暑い夏をお過ごし頂ければと思います。(鈴)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 千八一一三五〇五

福岡県宗像市田島三三三

電話 (〇九四〇)六二一一三二(代)

発行人 葦津幹之

編集人 大塚宗延・鈴木祥裕

制作・印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円